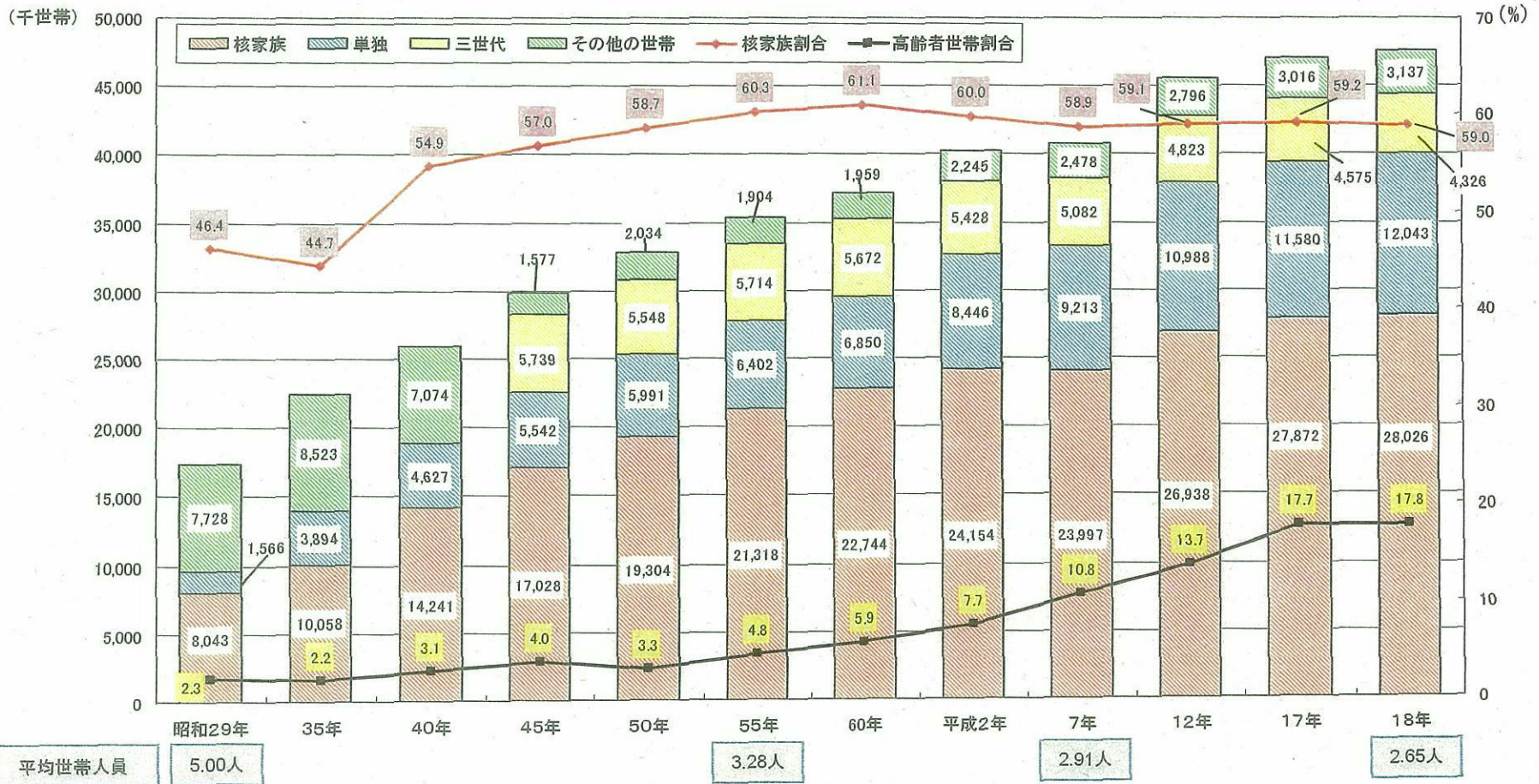


(10) 核家族及び高齢者世帯の推移

- 核家族世帯は、昭和29年の804万世帯から、平成18年には2,803万世帯と3倍以上に増加(一般世帯に占める核家族世帯割合は近年約6割で推移)している。
- 高齢化の進行に伴い、高齢者世帯割合がここ20年で約3倍と急激な伸びを見せている。
- 単独世帯は、昭和29年の157万世帯から、平成18年には1204万世帯と7.5倍以上に増加(一般世帯に占める高齢者世帯割合は2.3%から17.8%に増加)している。これに伴い、平均世帯人員は平成18年で2.65人と昭和29年当時に比べ、約半減している。



資料: 厚生労働省「国民生活基礎調査(平成18年)」

注1: 「核家族世帯」は、「夫婦のみの世帯」と「夫婦と未婚の子のみの世帯」並びに「ひとり親と未婚の子のみの世帯」

注2: 昭和29～38年は、「夫婦のみの世帯」と「夫婦と未婚の子のみの世帯」を「核家族世帯」、「ひとり親と未婚の子のみの世帯」と「三世代世帯」と「その他の世帯」を「その他の世帯」としてまとめている

注3: 昭和29年の高齢者世帯割合は、昭和28年のデータを使用

注4: 平成7年の数値は、兵庫県を除いたもの